

研修報告書No. 1 3

所 属：県外大学病院研修医

研修先：佐川町立高北国民健康保険病院

仁淀川町国民健康保険大崎診療所

地域医療研修を終えて

私は2015年10月の一ヶ月間、地域医療研修の一環として佐川町にある高北国民健康保険病院と仁淀川町の大崎診療所で研修をさせていただきました。

私が医師になるきっかけを作ってくれた祖母は、長年、高知県で保健師として地域医療に従事していました。以前、「地域医療とはどういったものなのか」という質問をした私に、祖母は「患者さんだけでなく、その家族も含めて全体を診るということだと思う」と答えたくれたことを覚えています。今回、私は、祖母が取り組んでいた地域医療について学びたいと思い、高知での研修を希望しました。

高北病院は、佐川町や周囲の越知町、仁淀川町という非常に高齢化率の高い三つの町を含む高吾北地域にあることから、中核病院としての役割だけでなく療養型施設としての役割を果たすことも求められています。また、高齢者住宅や独居の高齢者、自宅療養中の患者さんへの往診をしたり、地域住民のための勉強会を行ったりと、その医療活動は多岐に渡ります。さらに、医療スタッフの数も十分ではないことから、スタッフ一人一人に求められる知識や技術は非常に多いと感じました。しかしながら、その分、医師とコメディカルスタッフとの連携が密であり、さらには地域住民との連携も密であるように思いました。その結果、患者さんやご家族が医師やコメディカルスタッフへ寄せる信頼も大きいものになっているのだと感じました。

私が、高知県での研修で一番印象に残ったのは、自宅で生活されている高齢者が多いことでした。高齢者の場合、入院中の認知機能やADLの低下が必ずと言っていいほど問題となるため、高知県のように高齢者の多い地域ではリハビリ科と医師の連携が必要不可欠です。実際、高北病院では、平均年齢が80歳を優に超えるのではないかとこのほど、入院患者さんは高齢者ばかりでした。また、自宅退院を目指すためには、患者さんだけでなく、そのご家族や自宅環境まで気を配る必要があります。都市部の大学病院での研修中に受け持った高齢の入院患者さんはリハビリを行いながら療養型病院へ転院し、ご家族のサポートが難しいため施設へ入所するといった流れがほとんどだったように思います。しかし、健康寿命が長いことも関係しているとは思いますが、高吾北地域では何らかの疾患を抱えていたとしても、多くの方が往診や訪問介護、訪問看護をうまく利用しながら、ご家族のサポートのもと、もしくは一人で生活されていました。

高知県での研修中は往診や訪問介護に随行させていただく機会が多くあり、今まで訪問診療をよく知らずに、介護が不可能であれば施設に入所するといった流れを当然のように考えていた自分を恥じました。もちろん、高齢者の独居には様々な問題があると思いますし、介護の負担は非常に大きいものだと思います。高知県の健康寿命が長いことや多世代が同居していることも自宅療養の高齢者が多いことに大きく寄与しており、都市部と単純に比較することはできません。しかし、今後は自宅療養の方法をもっと知り、患者さんとご家族に選択肢の一つとして提供していきたいと思いました。

最後に、浦口先生をはじめとした高北病院の方々、沖先生をはじめとした大崎診療所の方々、高知医療再生機構の方々、そして地域住民の方々にはこのような貴重な機会を与えていただいたことを心より御礼申し上げます。